

自助具コンテスト（通称）の目的

- (1) 障がい者・高齢者に対する理解と認識を深める。
- (2) 障がい者・高齢者に役立つ生活用品等の開発に資するとともに「障がい・老い」を身近に感じていただく機会とする。
- (3) リハビリテーションの一翼を担う「作業療法・作業療法士」についての理解を深める機会とする。

自助具コンテストの概要

自助具コンテストは栃木県作業療法士会で15年間続いている活動です。今年度はコロナ禍を考慮し、郵送は行わず、栃木県作業療法士会ホームページの掲載を通して応募案内を行いました。応募方法は自助具作品の概要や適応する対象者、作製方法について応募フォーマットに記載し、メールまたは郵送にて受付しております。また、同年の栃木県作業療法学会の学会長と委員にて採点を行い、栃木県作業療法士会ホームページにて最優秀賞、優秀賞、学会長賞の表彰・応募作品を紹介しました。

今年度の成果

第15回は応募が13作品ありました。審査の結果、最優秀賞、優秀賞、学会長賞が決まりました（図2）。

毎年、作業療法士だけでなく、他職種や当事者の方から独創的な作品や生活の創意工夫を凝らした作品が本コンテストに届きます。本コンテストはそうした一人ひとりの工夫を情報として発信し、作業療法士及び当事者の方々がより豊かな選択肢を持てるように支援しています。

また、今年度はコロナ禍を考慮し、自助具コンテストを完全オンラインによって実行することができました。学会における作品展示は叶いませんでしたが、栃木県作業療法士会の文化として継続することができたことを誇りに思います。

第15回 とちぎ福祉用具・自助具 “発明・工夫・適応”コンテスト

応募資格 ・道具を利用する当事者またはその家族の方
・リハビリテーション、医療・福祉・介護関係者、学生の方

応募内容 ・生活をより便利で快適にするために考案された道具
・自立した生活を目指す上で工夫された福祉用具や自助具など

応募方法 ・栃木県作業療法士会ホームページにアクセスし応募用紙に必要事項を記入の上、メールまたは郵送して下さい。

今年度 限定特典 先着 20名 県士会オリジナルトートバックプレゼント！

応募期間 ・令和2年9月1日～令和2年9月30日

景品 最優秀賞(1名):商品券5000円相当
優秀賞 (2名):商品券3000円相当

お問い合わせ先
〒329-1225 栃木県塩谷郡高根沢町大字石末1005-8
担当 : 介護老人保健施設高根沢サハ-ホーム
木村 菜津子 宛
TEL : 028-675-7877 FAX : 028-675-7778
E-MAIL : jyuufuku@tochi-ot.com

主催：一般社団法人 栃木作業療法士会

図1：コンテストポスター

No.		作品名
1	優秀賞、学会長賞	リーメンビューゲル用ズボン
2		てこの力でラクラク水流し
3		チャックできます
4		らくらくドライヤーホルダー
5	優秀賞	たて・よこ自在歯ブラシホルダー
6		グーでも肘でも切れます
7		～自宅でカンタン～太柄自助具
8	最優秀賞	電気ひげそり保持自助具
9		パッ!カード
10		らく干しフックピンチ
11		ペットボトルけん玉
12		かんたんエプロン

※No.13 は参加者希望により情報非公開

図2：2020年度応募・受賞作品

今後の展開

自助具コンテストは栃木県作業療法士会で15年間続く活動です。今後も継続していくとともに、さまざまなツール（パンフレット、映像、書籍など）を用いて自助具の普及・推進をしていきたいと考えています。

本研修会の目的

- (1) スプリントに関する基礎知識を提供する
- (2) スプリント素材を実際に触れて装具を作製する機会を提供する
- (3) スプリントを用いた作業療法実践が行える作業療法士の育成を図る

本研修会の概要

コロナ禍により社会情勢が一変し、医療業界は予断を許さない現状が続いた一年でした。スプリントは有用な治療手段の一つですが、セラピストに特殊な技能を必要とし、商品購入にコストが発生することから導入のハードルが高いようです。一方、コロナ禍の影響で研修会は軒並み中止となり、作業療法士がスプリントの作製に関する学習機会が皆無となりました。

そこで、本研修会は完全オンラインでのスプリント研修会を考案しました。通常、スプリントセミナーは本来、多くの物品を準備する必要があるため、オンラインではほぼ実現できません。しかし、ルナキャストは自宅でもお湯とタオルとハサミを用意するだけで使用することができます。株式会社イワツキによる協力を得て参加を希望する作業療法士向けにルナキャストを無償で郵送いただきました。Zoomを用いたオンライン講義と参加者へのルナキャスト郵送により、本研修会を実現することができました。

本研修会の成果

参加者は20名のうち県士会員が19名、他県士会員（石川県）が1名でした。参加者のスプリント経験を図1、作れるようになりたいスプリントを図2に示します。

スプリントを作製した経験はありますか？（複数回答可）
20件の回答

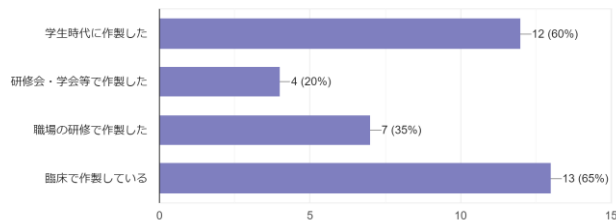


図1：スプリント経験

作れるようになりたいスプリントはありますか？
20件の回答

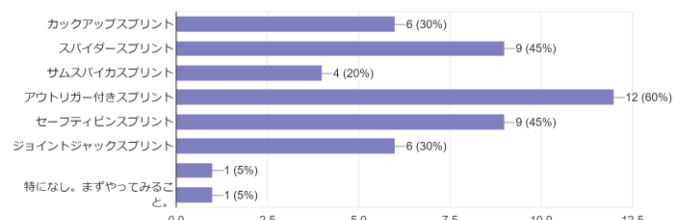


図2：作れるようになりたいスプリント

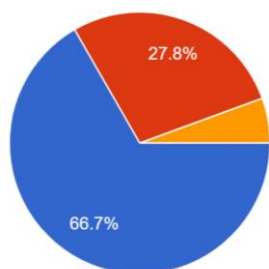


図3：研修内容について

- 大変よい
- よい
- 普通
- 悪い

終了後アンケートでは、研修内容について（図3）「よい・大変よい」と回答した人が95%を占めました。また、次年度の参加希望についても95%が「したい」、5%が「予定が合えば」と回答しました。2時間の中で講義とスプリント作製を行ったため、非常にタイトなスケジュールであったと感じます。また、作れるようになりたいスプリントを学ぶ機会を設けるためにも、本研修会を次年度にも継続して行うことを検討したいと思います。

今後の展開

スプリントに関する知識・スキルは、自助具や福祉用具など準じて非常に有用であると思います。士会員の知識・スキル向上を図るため、次年度の継続を検討します。

本研修会の目的

- (1) 自助具作製に関する基礎知識を提供する
- (2) 自助具の作り方、デザインを決める際の考え方を学ぶ機会を提供する
- (3) 自助具を用いた作業療法実践が行える作業療法士の育成を図る

本研修会の概要

コロナ禍により学会や研修会の多くはWeb化されました。今年度は当委員会の自助具コンテストも完全オンラインで行いました。従来は学会での展示会にて自助具に触れる機会を設けていましたが、今年度はWeb化により作品を手にすることは叶わず、士会員への自助具に関するかわりが不十分であったと思います。

そこで、当委員会は完全オンラインでの自助具づくりの研修会を考案しました。通常、自助具を作ることは多くの物品を準備する必要があるため、オンラインではほぼ実現できません。しかし、事前の事例動画を用いて検討機会を作り、当日に参加者との意見交換・情報共有を通して、自助具を作る際に最も重要となるプロセスを経験することが出来ます。実際の作製ができた方は少数ではありますが、Zoomを用いたオンライン講義と参加者との意見交換により、本研修会を実現することができました。

本研修会の成果

参加者は14名のうち県士会員が12名、他県士会員（埼玉、千葉）が2名でした。参加者の自助具作製経験を図1、作れるようになりたい自助具を図2に示します。

自助具を作製した経験はありますか？（複数回答可）
16件の回答

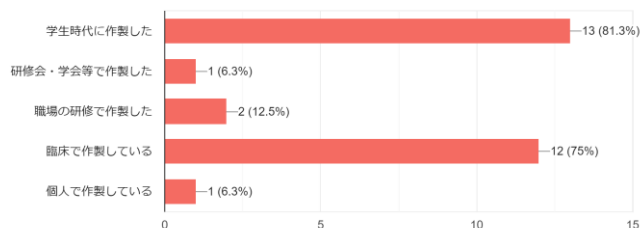


図1：自助具作製経験

作れるようになりたい自助具はありますか？
16件の回答

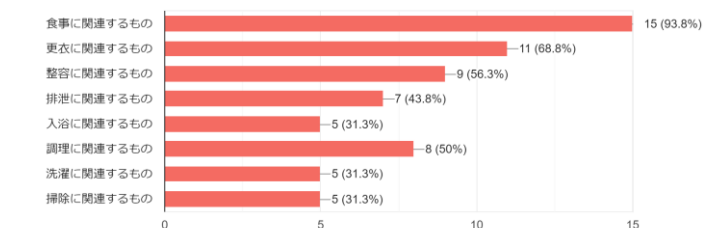


図2：作れるようになりたい自助具

講義を通して参考になった点を教えてください
9件の回答

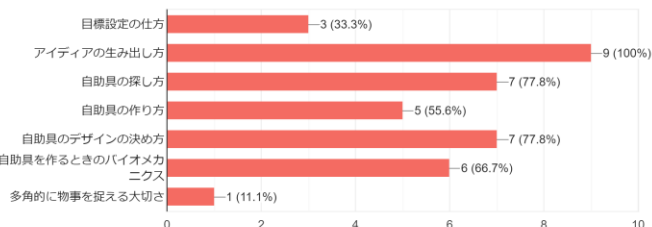


図3：研修で参考になった点

終了後アンケートでは、研修で参考になった点について（図3）「アイデアの生み出し方」と回答した人が100%、「自助具のデザインの決め方、自助具の探し方」が77.8%を占めました。また、次年度の参加希望についても100%が「したい」と回答しました。また、自助具を作るための知識・技術を学ぶ機会を設けるためにも、本研修会を次年度にも継続して行うことを検討したいと思います。

今後の展開

自助具作製に関する知識・スキルは、作業療法士の専門性を活かし、高齢者・障がい者の活動と参加を促すために非常に有用であると思います。士会員の知識・スキル向上を図るため、次年度の継続を検討します。